

苦小牧市	所属議員	牧田俊之
------	------	------

【活動選定項目】 国・県・市町で連携して取り組むテーマを設定	① カーボンニュートラル(CN)への対応 (エネルギー政策、水素社会、電動車) ② 誰もが自由に安心して移動できるモビリティ社会の実現 ③ 自動車整備士・ドライバーの更なる魅力向上 ④ 地域への貢献活動 (例:部活地域移行、ボランティア団体の後継者育成) ⑤ 子育て支援策 ⑥ 行政の DX 推進施策 ⑦ 人手不足解消への対応(多様性や多文化共生への対応など)
具体的活動 (調査研究含む)	重点対策加速化事業による 太陽光発電設備導入事業 供用開始セレモニー 2024 年 5 月 28 日 市有4施設で太陽光発電事業開始 市とエネコップ 本年度から 苦小牧市とエネコップは、 本年度、四つの市有施設 で太陽光発電事業を始め た。同社は無償でパネルを 設置して維持管理する「P PA(電力購入契約)」方 式で、市は0.01年に1度化 炭素(CO2)の実質排出 量を削減する。ゼロカー ボン実現に向けた一歩を 踏み出す。 市有施設は、市立第2中学校給食共同調理場の屋上に設置された太陽光発電 パネルを前に撮影する(左)市議員(右)と五十里社長 市有施設の実現に向け、 市有施設の屋根や敷地など を活用した太陽光発電の導 入を進めている。市の公募 で選ばれたエネコップは4 月から、市第2中学校給食共 同調理場に加え、道の駅ワ ッパ、アプロス、アプロス ポットセンター(計15万3 908.82坪)で、市第1学校 給食共同調理場(同17万1 81.7坪)に発電設備を設 置し、稼働させた。 セレモニーで、エネコー プの五十里社長は「苦 小牧市の取り組みは、苦 小牧市を取り組むことで 大きな成果が得られ、他 の自治体でも模範となる 事例となる」と話した。 2024年6月11日 北海道電力株式会社 北海道三井化学株式会社 株式会社IHII 丸紅株式会社 三井物産株式会社 苦小牧埠頭株式会社 北海道電力株式会社、北海道三井化学株式会社^{※1}、株式会社IHII、丸紅株式会社、三井物産株式会社、および苦小牧埠頭株式会社(以下、総称して「6社」)は、エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアムにより公募が行われた令和6年度「非化石エネルギー等導入促進対策費補助金(水素等供給基盤整備事業)」(以下、「本公募」)の採択事業として、「北海道苦小牧地域でのアンモニア供給大規模拠点」の実現可能性調査(以下、「本調査」)を実施します。 本公募は、経済産業省 資源エネルギー庁より、水素等の大規模な利用ニーズ創出と経済的・効率的かつ自立的発展が可能なサプライチェーンの構築を図ることを目的に実施されたものです^{※2}。 今後、6社は2024年4月に公表した「北海道苦小牧地域を拠点としたアンモニアサプライチェーン構築に向けた共同検討^{※3}」の一環として、アンモニア供給拠点の荷役設備(受入・出荷)や貯蔵タンクに関する設備仕様検討をはじめ、拠点としての事業性検討およびアンモニア等の需要調査等を進めています。
選択した項目 テーマ ① カーボンニュートラル (CN)への対応 (エネルギー政策、 水素社会、電動車)	王子HD、合成メタン製造へ 都市ガス主成分分 苦小牧でCO2活用 30年以降の供給目標 王子ホールディングス、合成メタン製造の検討開始を発表。 2024 年 5 月 10 日 植物工場やウイスキー 食品関連も多様に 地産地消を実践 建設が順調に進むベンチャーウイスキーの 蒸留所 【トピックス】建設が進むベンチャー ウイスキー蒸留所
今後の活動	・市内ですでに進行しているグリーン水素サプライチェーンの進捗及びモビリティへの展開の可能性追求 ・NEDO の調査事業等の実証・社会実装への展開の可能性を探る。